

デンソー サステナビリティボンド レポート (2026年・2029年満期 米ドル建無担保普通社債)

2025年10月
株式会社デンソー

デンソーは企業活動を通じて
SDGsの達成に貢献



1. フレームワーク

2030年長期方針における「環境」と「安心」の分野での新たな価値提供を通じ、持続可能な社会の実現に貢献するため、サステナビリティボンドを発行しています。調達資金を環境負荷低減及び社会的便益を有するプロジェクトへ充当することで、長期方針の取り組みを一層加速させます。
当社のフレームワークの詳細は下記の通りです。

	電動化	モノづくり	先進安全・自動運転
	適格グリーンプロジェクト = 「環境」		適格ソーシャルプロジェクト = 「安心」
取り組み内容、達成を目指す社会目標、社会便益	モビリティ製品の電動化により、環境負荷低減に貢献 2025年:電動化製品売上高1兆円	モノづくりに係るカーボンニュートラル達成 2025年:電力のカーボンニュートラル達成(ガスはクレジットを含む) 2035年:モノづくりの完全なカーボンニュートラル達成を目標	交通事故のない誰もが安心・安全に移動できる社会の実現 - 車載センサーの全周囲化とともに地図・V2X(クルマとインフラやクルマ同士をつなぐ技術)・DSM(ドライバーステータスモニター)の強化による多様な事故シーンのカバー 2025年:ADAS売上高5,000億円
資金使途	電動化事業における新規又は既存の研究開発関連の支出又は設備投資のファイナンス - 研究開発関連:電動車両の駆動に欠かせないインバーター、モータージェネレーター、電池ECU等の主要製品が車両に搭載された際の燃費・電費などの性能アップに寄与する技術開発への支出等を計画 - 設備投資:上記主要製品の生産拡大の為の設備投資を計画	モノづくりに係る新規の投資のファイナンス - 太陽光発電設備など再生可能エネルギーの導入等 - 再生可能エネルギー由来の電力等を外部から購入する際の調達支出(証書やPPAなど)による、再生可能エネルギー電力調達のための支出を含む)	先進安全・自動運転事業における新規又は既存の支出又は投資のファイナンス - 対象事業:モビリティ全体にかかる電子システム、サービス、プラットフォームの開発・提供を行う事業(ミリ波レーダー、画像センサー、DSM(ドライバーステータスモニター)、エアバックシステム等を含むが、これらに限定せず) - 研究開発関連:先進安全・自動運転に関連する事業の主力製品であるミリ波レーダー、画像センサー等の性能向上に寄与する技術開発への支出等を計画 - 設備投資:上記主力製品の生産拡大のための設備投資を計画
貢献する持続可能な開発目標(SGDs)	3 すべての人に健康と福祉を 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任、つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を		

デンソーのサステナビリティ方針や具体的な取り組みは弊社ホームページや統合報告書をご参照ください。
<https://www.denso.com/jp/ja/about-us/sustainability/>
<https://www.denso.com/jp/ja/about-us/investors/annual-report/>

2. 資金充当状況レポート

当社は、適格クライテリアに適合するプロジェクトに調達資金の全額が充当されるまでの間、資金充当状況のレポートを年次で公表します。
2025年3月末時点での資金充当状況及び充当されたプロジェクト概要は、下記の通りです。

		電動化	モノづくり	先進安全・自動運転
		適格グリーンプロジェクト		適格ソーシャルプロジェクト
2026年満期	発行額	500 百万米ドル		
	充当状況			
	充当額	241 百万米ドル	34 百万米ドル	225 百万米ドル
	充当割合	55%		45%
	未充当金額	- 2021年9月～2023年3月で充当済		
2029年満期	発行額	500 百万米ドル		
	充当状況			
	充当額	73 百万米ドル	15 百万米ドル	78 百万米ドル
	充当割合	53%		47%
	未充当金額	334 百万米ドル		
調達資金が充当された適格プロジェクトの例		- 電気自動車(BEV)・燃料電池車(FCEV)向けのインバーター、モータージェネレーター、電池ECU、熱マネジメントシステム等の燃費・電費向上(高効率化、軽量化等)に寄与する技術開発 - 上記主力製品の生産拡大のための設備投資	- 再生可能エネルギーにより発電された電気を導入 - カーボンニュートラル工場実現に向けた太陽光発電設備の導入(アジア等)	- 先進安全・自動運転に関連する事業の主力製品であるミリ波レーダー、画像センサー等の性能向上(検知距離の遠距離化、画角高角化等)に寄与する技術開発 - 上記主力製品の生産拡大のための設備投資

- 充当額は、本サステナビリティボンド発行後の新規の研究開発及び設備投資等支出に充当しています。
- 当社ではグリーンやソーシャルプロジェクトへの投資・研究開発の所在地を日本からグローバルへと拡大しています。2026年満期のサステナビリティボンド発行時のフレームワークにおいて資金充当対象のプロジェクトの所在地を日本としていましたが、他地域（主に北米、欧州、中国、豪亜）におけるプロジェクトの加速を踏まえ、それらの地域のプロジェクトへも資金を充当しています。

3. インパクトレポート

当社は、サステナビリティボンドの償還までの間、適格プロジェクトに関連する以下の指標を機密性及び守秘義務の観点から、開示可能な範囲において、年次で公表します。
2025年3月末時点での各指標は、下記の通りです。

電動化 適格グリーンプロジェクト

提供価値 電動化領域へのシステム・製品貢献



モノづくり 適格グリーンプロジェクト

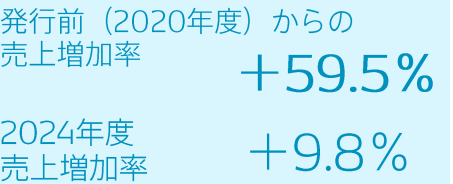
提供価値 再エネ活用およびグリーンエネルギーの導入によるCO₂排出量削減



先進安全・自動運転 適格ソーシャルプロジェクト

提供価値 交通事故のない安全な社会の実現
・多様な事故シーンをカバーする製品群の開発
・コア製品の拡販、後付製品の拡充

先進安全・自動運転に必要な機能への対応可能状況



車両システム	認識対象	事故シーンの前提	2021年9月末 時点の 対応状況	2025年3月末 時点での 対応状況
自動ブレーキ	車両	追突	●	●
		後退	●	●
		交差点（右折対向、出会い頭）		●
		正面衝突		●
		車線変更（死角支援）	●	●
	歩行者	追突、横断	●	●
		右左折横断		●
		後退		●
	自転車	追突、横断	●	●
		右左折横断		●
		後退		
	バイク	追突		●
		後退		
		交差点（右折対向、出会い頭）		●
		正面衝突		●
		車線変更（死角支援）	●	●
低速衝突回避	車両・周辺障害物等	踏み間違い等	●	●
運転支援・自動運転 （高速道・自専道）	車両・車線		●	●
	カーブ曲率			●
	車両・車線・歩行者等			●
運転支援・自動運転 （一般道）	仮想車線（地図活用）			
	信号			●
	標識（速度等）		●	●
自動駐車	駐車車両		●	●
ドライバー モニタリング	ドライバー顔向き・		●	●
	眠気		●	●

上記システムは車両としてのものであり、当社はこれらのシステムの実現に貢献しております。